

研究活動報告(アルファベット順)

2022年(1月1日から12月31日)における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動委員会の依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名, (専門領域), I.著訳書, II.学術論文, III. その他の著作(研究ノート, 報告書, 雑誌, 新聞, ニュースレター等), IV.学会発表, V.その他の発表(シンポジウム, 講演, 放送等), VI.学会および公的な機関の委員, VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

Custance, Imogen M. (カスタンス・イモージェン M.) [TESOL, Vocabulary, Production]

II. 学術論文

- (1) “Investigating the impact of dictation post-tasks on production: a pilot study.” 大阪女学院短期大学紀要, 51, 2022年3月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) “Recent research in extensive reading.” Extensive Reading in Japan, 15, 2022年12月, 単著

IV. 学会発表

- (1) “The TED Talks project: Individualizing listening practice.” Japan Association for Language Teaching (JALT), Fukuoka, Japan, 2022年11月14日

円城 由美子 (えんじょう・ゆみこ) [国際関係, 平和構築, 難民・国内避難民, ジェンダー]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「イラクにおける国内難民の移動と避難状況——なぜ戻れないのか——」, 研究ノート, 第18号・大阪女学院短期大学第51号紀要, 2022年3月.

船越 多枝 (ふなこし・たえ) [経営学(組織論・組織行動論), 企業におけるダイバーシティ・マネジメントとインクルージョン, 企業におけるグローバル人材の育成, Organizational Management (Organizational Behavior, Diversity and Inclusion in Japanese companies, Human Resource Development)]

II. 学術論文

- (1) 「ファシリテーション研究とは何か：6つの学問領域における先行文献レビューを比較して」, 『大阪女学院大学 紀要第18号』, pp. 21-35, 2022年3月, 共著(奥本京子・前田美子・中西美和・船越多枝・関根聡・上野育子).
- (2) 「インクルージョン認識のマネジメント：ニューノーマル時代における課題と今後の展望」, 『第83回日本情報経営学会全国大会予稿集』, 春号(統一論題「Diversity & Inclusion」), pp. 17-20, 2022年6月, 単著.

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「従業員のインクルージョン認識の高まりが職場にもたらすもの」, 『日本の人事部 LEADERS』vol. 10, p.123, 2022年4月, 単著.

IV. 学会発表

- (1) 「統一論題報告：インクルージョン認識のマネジメント：ニューノーマル時代における課題と今後の展望」, 第83回日本情報経営学会全国大会, 於：専修大学, 単独, 2022年6月25日.
- (2) 「管理会計関連学会誌の査読制度実態解明のための探索的調査」, 日本管理会計学会 2022年度年次全国大会(自由論題報告), 於：明治大学駿河台キャンパス, 共同(加登豊・安酸建二・船越多枝・岡田幸彦・松尾貴巳), 2022年8月30日.

- (3) 「管理会計関連学会誌の査読制度誌諸規定の比較検討：実態解明調査のための予備的分析」, 日本原価計算研究学会第48回全国大会(自由論題報告), 共同(加登豊・松尾貴巳・安酸建二・岡田幸彦・船越多枝), 2022年9月8日.

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「2月 Meet Up: アカデミア・プラクティスを考える①: ダイバーシティ&インクルージョンについて」, 日本人材マネジメント協会, 於: オンライン, 共同(酒井之子・船越多枝), 2022年2月22日.
- (2) 「インクルージョン・マネジメント(出版記念講演)」, 神戸大学MBA同窓会(MBA Cafe), 於: オンライン, 単独, 2022年3月10日.
- (3) 「多様な人材を組織のパフォーマンスに変える。インクルージョン認識を高める職場づくりとは」, 『日本の人事部 インタビューコラム「キーパーソンが語る“人と組織”』, 2022年6月, 単独インタビュー記事, <https://jinjibu.jp/article/detl/keyperson/2894/>
- (4) 「インクルージョンと女性活躍～女性の活躍を促すインクルージョン・マネジメントとは～」, 豊岡市・日本政策金融公庫神戸支店・但馬銀行・但馬信用金庫主催 ダイバーシティ推進セミナー, 於: 豊岡市役所, 単独, 2022年7月14日.
- (5) 「多様な人材の活躍を促す, インクルージョン・マネジメントとは」, 「逸品」ものづくり経営塾(NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク主催), 単独, 2022年9月2日.
- (6) 「インクルージョン・マネジメント: 個と多様性が活きる組織」, 神戸CSR研究会 第124回定例研究会, 於: 神戸大学, 単独, 2022年9月10日.
- (7) 「インクルーシブな組織をつくる～個と多様性を活かせるリーダーとは～」, HR Summit 2022(株ProFuture主催), 於: オンライン, 単独講演及び共同パネルディスカッション(浅野浩美・船越多枝・林恭子), 2022年9月16日～10月14日(期間中オンデマンドにて配信).
- (8) 「組織において, インクルージョンは, どのように進められ, 活かされているのか」, 人材育成学会 第46回研究会, 於: オンライン, 単独, 2022年9月23日.
- (9) 「基調講演: 多様な人材が活きるインクルージョン・マネジメントとは」, 大阪商業大学 比較地域研究所国際シンポジウム「多様な人材が活躍する組織とはーインクルージョン(包摂)のマネジメントとリーダーシップ」, 単独, 2022年11月26日.
- (10) 「女性の活躍を促すD&I, 一般社団法人ぶちでガチ「子連れMBA: みんな違ってみんないい子育て世代から始めるダイバーシティ講座」, 単独, 2022年11月28日.
- (11) 「基調講演: 個と多様性が活きる組織に向けた, インクルージョン・マネジメントとは」, 株式会社JTB「サステナビリティ月間・JTB Diversity Week 2022」, 於: オンライン, 単独, 2022年12月5日.

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「がんサバイバーの職場における活躍と課題: インクルージョン概念と制度活用への着目」, 科学研究費助成事業(科研費)若手研究, 研究代表者, 令和2年度-令和5年度.
- (2) 「管理会計研究における査読制度の高度化に関する調査研究」, 一般財団法人牧誠財団 研究助成A(III). 共同研究者, 2022年4月-2023年3月.
- (3) 「日本人を対象とするインクルーシブ・リーダーシップの尺度開発と信頼性, 妥当性の検討」, 公益財団法人 労働問題リサーチセンター研究助成, 共同研究者, 2022年9月-2023年8月.

箱根 かおり(はこね・かおり) [Education, Community Development, Technology]

II. 学術論文

- (1) “A Grassroots Community Initiative in Ishinomaki City, Japan: Reflecting on a Visit to a Mosque”, *Josai Contemporary Policy Research*, vol. 16 (1), 49-66, December 2022, Joint work

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「Google Classroom- どうしたらハイブリッドの授業でより良いクラスの文化が作れるだろうか」, 『Google for Education』Google Classroom Video Series, January 2022, individual work

Ⅳ. 学会発表

- (1) “Issues of tourism in Kyoto taught through content-based instruction”, JALT Pan SIG, Nagano, July 10, 2022
- (2) “Reconstruction in Iwanami Following 311 Community Connections & Preparing for the Future: A Motto of Lifelong Activism & Mix and Match”, Summit International Institute Seminar, Kwansai Gakuin University, July 16, 2022

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) Google Community Voices, February 6, March 27, July 9, and August 24
- (2) IBDP Geography workshop (category 1), International Baccalaureate Organization, Online, August 19-21, 2022
- (3) Book Film Festival, “This is How the Book Film Festival Excellence Award Trailer was Created”, August 26, 2022
- (4) GEG Shinjuku, “The Secrets to Building Community for Teachers Beyond the Confines of the School”, January 6, 2022
- (5) GEG Shinjuku, “School Information Security”, April 19, 2022
- (6) GEG Shinjuku, “Adobe Express Hands On Session”, July 29, 2022
- (7) GEG Shinjuku, “Figma Workshop”, December 3, 2022

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) Japan Association for Language Teaching, Technology Advisory and Support Committee, 2019-Present
- (2) Japan Association for Language Teaching, Okinawa Chapter, Translator, 2019-Present
- (3) International Baccalaureate (IB) Organization Educators’ Network: an IBDP examiner, a school visiting member, a workshop leader, a course outline reader, 2006-Present
- (4) Book Film Festival: Founder, 2021-Present
- (5) Apple Distinguished Educator, 2011-Present
- (6) Google Certified Innovator, 2014-Present
- (7) Google Certified Trainer, 2017-Present
- (8) Leader of Google Educators’ Group 新宿 Shinjuku, 2015-Present

幡新 大実(はたしん・おおみ) [英米法, 人権法, 国際関係史]

Ⅰ. 著訳書

- (1) 共著, ‘Comment on Civil Enforcement Reforms from a Comparative and Historical Perspective’ in Masahide Deguchi ed. Effective Enforcement of Creditors’ Rights, Springer, pp. 89-94.
- (2) 共著, 深谷格・森山浩江・金子敬明編著『生と死の民法学』成文堂2022年191-228頁所収「死の過程におけるインフォームド・コンセント～事務管理と信託」

Ⅱ. 学術論文

- (1) 単著, 「自由権の起源～法の適正過程による市民的自由権保障のローマ法起源説」大阪女学院大学紀要第18号37-50頁
- (2) 単著, 「日本民法の事務管理とイギリス信託法の比較研究～最善の利益を題材に～」末川民事法研究第9号1-36頁

- (3) 単著, 「国際社会の構成国の要件についての比較法史的考察」法と文化の制度史創刊第1号 75-109頁

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 朝日新聞東京本社第49102号(2022年10月20日13面) 耕論「横井庄一さん」インタビュー
(2) 日本経済新聞東京本社第48969号(2022年12月5日30面) 現代史メモランダム 昭和元禄に甦った「戦争」インタビュー
(3) 大阪女学院大学国際共生研究所ニュースレター16号2-3頁「座談会 人権とは」
(4) 近時新聞第50号(2022年12月号13-15面)「伯爵夫人マティルドの日本内地紀行1867-1870」(ベルテッリ編幡新大実訳)
(5) ASA高の原「コミュニティ高の原」第496号(令和4年11月25日2面)「伝えたい私の戦中・戦後」

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 関西西事法研究会2022年7月16日「インフォームド・コンセント, 事務管理, 信託」
(2) 2022年12月20日於インド共和国インパール平和資料館, 戦史叢書『インパール作戦・ビルマの防衛』英訳版出版記念式典, 監修者講演「Cowardice vs. Recklessness (敵前逃亡罪対未必の故意による殺人罪) インパール作戦の指揮命令と軍刑法」

Head, Philip Arthur Somerville (ヘッド・フィリップ) [Applied Linguistics]

Ⅱ. 学術論文

- (1) Student reflections on the effectiveness of shadowing and listening practice. In P. Ferguson, & R. Derrah (Eds.), *Reflections and New Perspectives*. JALT. <https://doi.org/10.37546/JALTPCP2021-21> August 2022, joint work.
(2) The effect of shadowing and the ability of Japanese EFL learners to evaluate L2 English pronunciation. 大阪女学院大学紀要第18号 [*Bulletin of Osaka Jogakuin University*], 18, 109-126. March 2022, joint work.
(3) Head, P. (2022). Genki: A case study of benefits for foreigners producing theatre in a Japanese regional dialect. *The Mask & Gavel*, 10, 70-111. <https://doi.org/10.37546/JALTSIG.PIE10.1-4> February 2022, individual work.

Ⅳ. 学会発表

- (1) *Adapting a Foreign Language Community Theater Production to a COVID World*. Paper presented at JALT2022 Learning from Students, Educating Teachers—Research and Practice. Fukuoka, Japan (2022, November 14).
(2) *Comparing Human and Objective Vocabulary Ratings*. Research update presented at Hiroshima Lexical Research Forum 2022 (H-LRF 2022), Online, (2022, September 11).
(3) *Benefits for Foreigners of Producing Theatre in a Japanese Regional Dialect*. Paper presented at 29th Korea TESOL International Conference More Than Words: Teaching for a Better World, Online, (2022, May 1).

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT Performance in Education SIG, Publications Chair, November 2015 to present.
(2) JALT Publications, The Language Teacher Journal, Reviewer, January 2020 to present.

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) Prosodic hierarchy in terms of Articulatory Phonology and gesticulation 調音音韻論とジェスチャー音声表現から見た韻律階層 Kakenhi (Grants-in-aid for Scientific Research) Type C, 22K00621, 2022-2024, Co-investigator.
(2) Investigating the extent to which speech rater judgement relates to objective speech measures. Kakenhi (Grants-in-aid for Scientific Research) Type C, 19K00931, 2019, Primary investigator.

樋川 和子(ひかわ・かずこ)〔軍縮・不拡散〕

II. 学術論文

- (1) 「5核兵器国首脳声明:具体的なフォローアップのあり方ー日本の視点から」,『レクナポリシーペーパー』, REC-PP-13 (39-47), 2022年3月

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「『SDGs』と核問題」,『ひろしまレポート2022年版』, 2022年3月, 単著
- (2) 「女性・平和・安全保障(WPS)ー女性が意思決定に参加する」,『国連ウィメン日本協会おさかニュース』Vol.5, 2022年5月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「軍縮:持続可能性の観点から」, 日本軍縮学会, 於:日本軍縮学会年次総会, 開催日2022年5月28日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Institutional aspects of the NSG, including the POC, the impact on operations from the size of the group, support mechanisms, how the group evolved from the DUL to the modern NSG”, Columbia University, Webinar “The Nuclear Suppliers Group: Its Future in a Low-Carbon World”, February 8, 2022
- (2) 「国連の『新しい平和への課題(New Agenda for Peace)』」, 日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター, 於: ウェビナー「核軍縮・不拡散・核セキュリティをめぐる2021年の動向とロシアによるウクライナ侵略の核問題への含意」, 2022年3月28日
- (3) 「軍縮と平和について」, 大阪革新懇, 於: 平和外交シンポジウム, 2022年5月22日
- (4) 「核兵器廃絶への道ー世界を終わりにさせないために」, 朝日新聞社, 於: 国際平和シンポジウム2022, 2022年7月30日
- (5) 「核不拡散」, 日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター, 於: 軍縮・不拡散オンライン講座(第2回), 2022年9月14日
- (6) 「核廃絶に向けて私たちができることー女性・平和・安全保障ー」, 新日本婦人の会, 於: 新婦人60周年記念講演会, 2022年10月8日
- (7) 「国連憲章と日本国憲法」, 九条の会おさか, 於: 交流で深める講座第3弾, 2022年10月15日
- (8) 「女性・平和・安全保障ー女性を意思決定に参加させるー」, 大阪市教職員組合, 於: 第31回大阪市教教育研究集会, 2022年10月15日
- (9) 「新しい平和への課題」, ろうあ学校9条の会, 於: 9条の会講演会, 2022年10月22日
- (10) “How is the rise of China changing perspectives on strategic stability in the Indo-Pacific?”, Wilton Park, Wilton Park dialogue: Strategic Stability for unstable times, November 3, 2022
- (11) 「ウクライナの問題から考えるー「国際の平和と安全」ー」, 大阪府, 阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット公開講座フェスタ2022, 2022年11月16日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国連核軍縮検証政府専門家グループ, 委員, 2021年ー2023年
- (2) 日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター, 客員研究員, 2022年4月ー2023年3月
- (3) へいわ創造機構ひろしま「核軍縮と持続可能な未来に関する理論構築ワーキング・グループ」, 委員, 2021年7月ー現在
- (4) へいわ創造機構ひろしま「ひろしまレポート作成事業」, 委員, 2021年12月1日ー2022年3月31日
- (5) へいわ創造機構ひろしま「ひろしまレポート評価項目・評価項目等基準等策定及び見直し業務」, 委員, 2022年6月27日ー10月31日

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「安全保障を損なわない核軍縮：処方的アプローチによる政策課題群の学際的分析と提言」
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 2021年4月 - 2024年3月

加藤 映子(かとう・えいこ)〔言語習得, ICTを活用した教育〕

I. 著訳書

- (1) 「ハーバードで学んだ最高の読み聞かせ」(単著) 第四版 かんき出版, 2022年2月

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 絵本とことば 第20号 2022.4発行
 - (ア) 今季の絵本「てぶくろ」単著
 - (イ) 「加藤映子の留学物語Vol.20」単著
 - (ウ) ほんの千夜一夜「アメリカの小学校では絵本で英語を教えている」単著
 - (エ) 子どもとことば「ハルちゃんの軌跡」20 単著
 - (オ) 英語で絵本「TAP THE MAGIC TREE」単著
 - (カ) 「大阪女学院こぼればなし」単著
- (2) 絵本とことば 第21号 2022.7発行
 - (キ) 今季の絵本「へいわとせんそう」単著
 - (ク) 「加藤映子の留学物語Vol.21」単著
 - (ケ) ほんの千夜一夜「深夜特急1-6合本版」単著
 - (コ) 赤ちゃんことば「ハルちゃんの軌跡」21 単著
 - (サ) 英語で絵本「GOODNIGHT MOON」単著
 - (シ) 「大阪女学院こぼればなし」単著
- (5) 絵本とことば 第22号 2022.10発行
 - (ア) 今季の絵本「ソリちゃんのチュソク」単著
 - (イ) 「加藤映子の留学物語Vol.22」単著
 - (ウ) ほんの千夜一夜「いたずらのすきなけんちくか」単著
 - (エ) 赤ちゃんことば「ハルちゃんの軌跡」22 単著
 - (オ) 英語で絵本「Good Evening Mr. Moon」単著
 - (カ) 「大阪女学院こぼればなし」単著
- (6) 絵本とことば 第23号 2022.12発行
 - (ア) 今季の絵本「ゆかいなゆうびんやさんのクリスマス」単著
 - (イ) 「加藤映子の留学物語Vol.23」単著
 - (ウ) ほんの千夜一夜「スノーマン：クリスマスのお話」単著
 - (エ) 赤ちゃんことば「ハルちゃんの軌跡」23 単著
 - (オ) 英語で絵本「Where is Baby's Christmas Present?」単著
 - (カ) 「大阪女学院こぼればなし」単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) ADS Meet up「大阪女学院大学の報告 Everyone Can Create」2022年3月25日, オンライン開催, 主催: Apple
- (2) 2022韓日大学交流プラットフォームセミナー「大阪女学院大学について」2022年5月13日, オンライン開催, 主催: 韓国留学博覧会
- (3) 夢ナビオンデマンド講義・講義ライブ質問対応・研究室訪問「はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」2022年7月10日, 17日, 主催: フロムページ
- (4) 招待講演「子どものことばを育む絵本の読み聞かせ～思考力・読解力・伝える力が伸びる～」
聖徳学園知能教育夏期セミナー, 2022年7月28日, 於: 聖徳学園小学校

- (5) 招待講演「子どものことばを育む最高の読み聞かせ～思考力・読解力・伝える力が伸びる～」
2022年8月27日、於：さかいっこひろば、主催：さかいっこひろば
- (6) インタビュー記事「子の「思考力・伝える力」を伸ばす読み聞かせのコツ～惰性で続ける絵本タイムから脱却/知っておきたいNGルール、日経xwoman Dual, 2022年8月17日、公開オンライン掲載
- (7) 招待講演「子どものことばを育む絵本の読み聞かせ～思考力・読解力・伝える力が伸びる～」
2022年9月11日、於：粕谷町図書館、主催：粕谷町図書館
- (8) 夢ナビライブ秋 質問対応・研究室訪問「はらべこあおむしで読み解く日米教育事情」2022年10月16日、オンライン開催、主催：フロムページ
- (9) インタビュー「読み聞かせ対話で思考力磨く」2022年10月18日、日本テレビ系列「スッキリ」
- (10) ADS Virtual Global Summit School Leaders Panel Discussion Panelist, 2022年10月19日、オンライン開催、主催：Apple
- (11) キリスト教学校教育同盟代表者協議会 講演「大阪女学院での学びと働き～神の器として～」
2022年11月4日、於：大阪女学院(大阪クリスチャンセンター)、主催：キリスト教学校教育同盟
- (12) ADE Meet up 1 in 3 発表「この3年を振り返って」於：六本木ヒルズ Apple、主催：Apple

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 私学研修福祉会 私立大学の教育・研究充実に関する研究会(短期大学の部) 運営委員
2017年4月～現在にいたる
- (2) 大阪YMCA評議員 2017年6月～現在にいたる
- (3) 私立大学連盟理事長会議 幹事 2018年4月～現在にいたる
- (4) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会専門委員 2019年5月～現在にいたる
- (5) 大阪私立短期大学協会 副会長・理事・広報担当 2020年4月～現在にいたる
- (6) 日本私立短期大学協会 常任理事 2020年6月～現在にいたる
- (7) 公益財団法人大阪府私学総連合会 評議員 2020年6月～現在にいたる
- (8) 一般財団法人大学・短期大学基準協会 評議員 2020年6月～現在にいたる
- (9) 文部科学省 大学設置・学校法人審議会(学校法人分科会) 委員 2022年4月～現在にいたる

金 姫淑(きむ・ひすく)〔韓国語教育, 韓国語学〕

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 書籍紹介『言語 この希望に満ちたもの-TAVnet時代を生きる』, RIICC Newsletter, 第16号, 2022年10月31日
- (2) 授業紹介「English+1」『ハイライツ』第196号, 2022年12月

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 講義「K-POPで学ぶ韓国語」, 株式会社フロムページ, 於：オンデマンド(夢ナビ大学で究める学問発見サイトにライブ講義を掲載), 2022年5月公開
- (2) 夢ナビライブ2022 in Summer講義ライブ質問対応・研究室訪問「K-POPで学ぶ韓国語」, 株式会社フロムページ, 於：オンライン(Zoomミーティング), 2022年7月9日
- (3) 夢ナビライブ2022 in Autumn講義ライブ質問対応・研究室訪問「K-POPで学ぶ韓国語」, 株式会社フロムページ, 於：オンライン(Zoomミーティング), 2022年10月15日
- (4) 講演「英語だけじゃない大阪女学院-韓国ドラマから読み解く韓国文化-」, Homecoming Day 2022(第一部), 於：大阪女学院大学・短期大学, 2022年9月24日

前田 美子(まえだ・みつこ)〔比較・国際教育, 開発教育, 国際協力, 理科教育, 教育方法, 教師教育, ファシリテーション研究〕

II. 学術論文

- (1) 「ファシリテーション研究とは何か：6つの学問領域における先行文献レビューを比較して」, 『大阪女学院大学紀要』, 18号, pp. 21-35, 2022年3月, 共著(査読有)

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「文献紹介：SDGs時代の国際教育開発：ラーニングア・アズ・ディベロップメント ダニエル・A・ワグナー著, 前田美子訳/法律文化社 204ページ 3,800円+税 2020年9月発行」, 『異文化間教育』55号, p. 203, 2021年9月, 単著
- (2) 「開発途上国におけるカンニング行為－教員はどのようにかかわっているのか」, 『教師教育研究』12号, pp. 98-101, 2022年3月, 単著
- (3) 「SDGsへの貢献：「食の大切さ」を考えるワークショップ」, 『ウエルミナ・ボイス』44号, p.5, 2022年3月, 単著
- (4) 「書評：Takayo Ogisu “Reforming Pedagogy in Cambodia: Local Construction of Global Pedagogy”」, 『比較教育学研究』65号, p.122-124, 2022年7月, 単著
- (5) 「大阪女学院大学国際共生研究所 公開研究会」, 『大阪女学院大学国際共生研究所通信』16号, p.5. 2022年10月, 単著

IV. 学会発表

- (1) “Low-paid teachers’ involvement in exam cheating in developing countries”, International Center for Academic Integrity 2022 Annual Conference (virtual conference), March 8, 2021 (Reviewed presentation)

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) アドバイザー：グローバルキャンペーン「おにぎりアクション」, 於：大阪女学院大学およびオンライン, 2022年10月～11月

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 鳴門教育大学教員教育国際協力センター共同研究員 2012年8月より
- (2) Editorial board member of the International Journal of Comparative Education and Development (IJCED) 2015年10月より
- (3) 早稲田大学教師教育研究所 招聘研究員 2019年1月より

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「開発途上国の学業不正に関する研究：大学生のライフストーリーから」, 科学研究費助成事業 基盤研究C, 研究代表者, 2017年4月～2023年3月
- (2) 「国際教育開発としての日本型教育の輸出：教員養成カリキュラムを事例に」, 科学研究費助成事業 基盤研究C, 研究分担者, 2017年4月～2023年3月
- (3) 「開発途上国の教員の副業に関する研究：実態・背景・本業への影響に着目して」, 科学研究費助成事業 基盤研究C, 研究代表者, 2021年4月～2025年3月

松尾 徹(まつお・とのおる)〔協同学習, 語彙習得, 教員養成, 英語教授法(CLIL)〕

II. 学術論文

- (1) A Rasch-based Validation of the Phrasal Vocabulary Size Test, 大阪女学院大学紀要第18号, 2022年3月, 単著

IV. 学会発表

- (1) Interactive Skill-based Units in World News Class. CLIL教員研修プログラム 夏期ワークショップ, August 11, 2022

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「教員に必要な振り返り」大阪女学院大学 教職課程 教育と人間, 2022年8月10日

Matte, Barrie(マット・バリー) [Vocabulary, language testing, and computer assisted language learning]

II. 学術論文

- (1) 「An Investigation of Multilinguals' Language Development」, 大阪女学院大学 紀要第18号, 2022年3月, 単著

Miller, Richard(ミラー・リチャード) [Political Economy, English as a Second Language, Leadership, Business]

II. 学術論文

- (1) Miller, R., Takahashi S., *Online cultural exchange in the Covid-19 era+ Osaka Jogakuin University/College and Birzeit University* The Hirao Management Review Vol. 12 CUBE Konan University pp. 87-97. (Co-Author)
- (2) ----- *The political economy of markets: Interrelationships among individuals, government & public policy.* Osaka Women's College Journal 51 pp. 295-315. (Individual)
- (3) ----- Awuor, E., Chepkonga, P., Musangi, E., Miller, R., Muguna, S., *Four different types of intelligences and their application in strategic and organizational management and leadership.* The Hirao Management Review Vol. 12 CUBE Konan University pp. 99-118. (Co-Author)
- (4) Ritchie, Z, Miller, R., Parrish, M., *Challenges facing Kyoto City from international tourism and COVID 19: A case study.* Josai University 14:2. pp. 13-32. (Co-Author)

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) ----- Anarchy in the international system. *RIIC Newsletter*, 16, 6-7. October 31. (Individual)

IV. 学会発表

- (1) ----- *International relations power diplomacy and the nuclear neighborhood: Mackinder's Heartland Theory and the dual traps of Thucydides & Kindleberger.* "Embracing Change Through Resilience and Transformation in a Post Covid-19 World" Skeena Summit Academic Research Forum, Kwansai Gakuin University. July 16.
- (2) ----- *Diplomat leadership preparation from Africa to East Asia: A Qualitative Study of African Diplomats in Japan.* Ninth International Conference "Redefining Organizational Leadership and Management towards Post Covid-19 Pandemic" Management University of Africa, Nairobi. September 15.
- (3) Awuor, E., Cheokonga, P., Nyamai, E., Muguna, S., & Miller, R. *Multiple intelligences and their application in strategic & organisational management and leadership.* Ninth International Conference "Redefining Organizational Leadership and Management towards Post Covid-19 Pandemic" Management University of Africa, Nairobi. September 15.

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) ----- *Global Issues and Challenges in the new post COVID world.* Keynote Speaker, Management University of Africa, Nairobi. Ninth International Conference "Redefining Organizational Leadership and Management towards Post Covid-19 Pandemic" September 15.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Peace as a Global Language, Executive Director. 2011.

- (2) Japan Association of Language Teachers (JALT):
-SIG Officer Roles (Business SIG-Member at Large; Global Issues in Language Acquisition SIG-Member at Large; College and University Educators SIG Member at Large) 2013.
-Job Information Centre (JIC) Co-Coordinator. 2012-.
- (3) Academics Supporting Korogocho, Nairobi, Kenya. Founding Director 2015-.
- (4) Grapesyard NGO, Nairobi, Kenya. Board of Directors. 2019-.

森 均(もり・ひとし)〔教育学〕

I. 著訳書

- (1) 「改めてキャリア教育を考える」(学校例話研究会編)『教師の話し方・例話講座』2022年度版, 学事出版, (pp.126-127), 2022年4月, 単著

II. 学術論文

- (1) 「大阪府立高等学校における校長業務の側面－1年間の行動日誌から5分以内の対応を対象に－」, 『摂南大学教育学研究』第18号, 2022年3月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「体育祭・修学旅行で成長する高校生達とともに」, 『摂南大学教育学研究』第18号, 2022年3月, 単著
- (2) 「文化祭で成長する高校生達とともに」, 『大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教職課程機関誌OJU/OJC教職活動報告・研究』Vol.12, 2022年3月, 単著

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) ベルランド看護助産大学校, 学校関係者評価委員会委員長, 2015年4月～現在
- (2) 国立病院機構大阪医療センター附属看護学校, 学校関係者評価委員, 2020年4月～現在
- (3) 法務省, 保護司, 2016年1月～現在

仲川 浩世(なかがわ・ひろよ)〔英語教育学, 応用言語学, 英語ライティング・フィードバック研究〕

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「教職勉強会」大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教員養成センター, *Newsletter*, 第32号, 2022年1月, 単著.
- (2) 「内容重視型授業における異文化理解促進の試み」『大阪女学院短期大学紀要』第51号, 2022年3月, 単著.
- (3) 「英語教材開発における取り組みを振り返って」『2021年度 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 教職課程機関誌 OJU/OJC 教職活動報告・研究』第12号, 2022年3月, 単著.
- (4) 「授業紹介 World News」『大阪女学院ハイライト』第195号, 2022年7月, 単著.
- (5) 「英語教員のつぶやき: 研究会活動から学んだこと」大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教員養成センター, 『英語教育リレー随想』第135号, 2022年10・11月, 単著.

IV. 学会発表

- (1) 「内容重視型授業における意識の変容に関する事例研究」全国英語教育学会. オンライン開催, 2022年8月7日.
- (2) 「教師教育における言語教育統合の可能性: 大村はまの教育哲学より」日本教科教育学会. 於: 愛媛大学 教育学部, 2022年10月9日.
- (3) “Impact of implicit learning on communication confidence.” JALT 2022 International Conference, Fukuoka International Congress Center, November 14, 2022.
- (4) “Enhancing false beginners’ writing skills through collaborative writing tasks.” Nara JALT 2022, Nara Women’s University, December 4, 2022.

中西 美和(なかにし・みわ)〔臨床心理学〕

II. 学術論文

- (1) 「ファシリテーション研究とは何か：6つの学問領域における先行文献レビューを比較して」, 『大阪女学院大学紀要』第18号, pp.21-35, 2022年3月, 共著
- (2) 「通い型Tグループを用いたリーダーシップトレーニングの実践報告」, 『人間関係研究』第21号, pp.11-24, 2022年3月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「長期フォローアップからみた学生を対象としたTグループの意義」, 日本人間性心理学会第41回大会(オンライン), 開催日2022年9月10日-11日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「カウンセリング概論」, 関西いのちの電話 第58期電話相談ボランティア養成講座, 於: 関西いのちの電話(博愛社5階), 2022年9月8日, 講師

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本人間性心理学会第41回大会 準備委員会事務局長, 2021年~2022年

奥本 京子(おくもと・きょうこ)〔平和学・紛争転換・平和教育・平和ワークにおける芸術アプローチ・ファシリテーション・メディアーション〕

I. 著訳書

- (1) 「プロローグ」, 「エピローグ」, 第IV部「平和教育の実践：授業やワークショップのためのプログラム集」, (共編者: 高部優子, 奥本京子, 笠井綾), 『平和創造のための新たな平和教育：平和学アプローチによる理論と実践』, 法律文化社, 2022年1月, 共著
- (2) 第I部「平和教育の平和学的アプローチの理論と方法」第2章「平和教育のためのファシリテーション・アプローチ」, (共編者: 高部優子, 奥本京子, 笠井綾), 『平和創造のための新たな平和教育：平和学アプローチによる理論と実践』, 法律文化社, (pp. 19-29), 2022年1月, 単著
- (3) “Theatre Arts in Peace Education: The Praxis at the Mindanao Peacebuilding Institute in the Philippines.” In Candice C. Carter and Rodrigo Benza Guerra (Eds.), *Educating for Peace through Theatrical Arts: International Perspectives on Peacebuilding Instruction*, Routledge, (pp. 109-129), 2022, joint work (Kyoko Okumoto, Babu Ayindo and Dessa Quesada Palm)
- (4) *Our Peacebuilding Story: The First Ten Years of Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute (2011-2020)*, NARPI Book Team (Suyeon Kang, Kyoko Okumoto, Meri Joyce, Natsuha Kajita and Karen Spicher) (Ed.) Peacebuilding Press, August 2022, joint work

II. 学術論文

- (1) 「ファシリテーション研究とは何か：6つの学問領域における先行文献レビューを比較して」, 『大阪女学院大学紀要』第18号, 2022年3月1日, 共著(奥本京子, 前田美子, 中西美和, 船越多枝, 関根聡, 上野育子)

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「平和創造かき消す9条廃止論」, 『しんぶん赤旗』日刊第25542号, 2022年3月4日, インタビュー記事
- (2) 「来自日本の誠摯祝贺と友谊」, 『和平研究1』第132758号, 2022年7月, 単著
- (3) 「大阪府委託リレーエッセイ 令和4(2022)年度第2回...~平和学から考える~「平和」な社会に向けて私たちができること」, 一般財団法人大阪人権協会「人権トピックス」HP, 2022年11月16日, インタビュー記事

IV. 学会発表

- (1) 「平和紛争学における芸術アプローチ：その実践例を通じて」, 立命館大学村本邦子主宰「平和研究会(仮)」, 於：オンライン, 2022年9月15日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「平和学：日本の平和貢献のあるべき姿を考える」, ピースデイ マンスリー21, 一般財団法人PEACE DAY, 於：オンライン, 2022年1月21日
- (2) 「ウクライナ危機を考える：市民社会に何ができるのか」, 非暴力平和隊・日本NPJカフェ, 於：オンライン, 2022年3月6日
- (3) 「平和紛争学における芸術アプローチ：東北アジアでの実践から」, 大阪大学・広島大学・文部科学省委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」, 「分断社会の超克」, 第9回ワークショップ「平和へのアプローチ」, 於：オンライン, 2022年3月22日
- (4) 「Why Peace Needs the Arts: Exploring Creative Resources for Peacebuilding」, Mindanao Peacebuilding Institute, 於：オンライン, 2022年3月24日～5月19日(毎週木曜日×9週間), 共同ファシリテーター：Dessa Quesada Palm氏
- (5) 「今水俣から、分断する地域とその紛争変容や平和を考える－水俣・福島・辺野古・東アジア・そして世界」, 石原明子科研「分断された地域コミュニティの「対立・葛藤変容」に向けた分析とプログラムの提示」, 於：熊本県水俣市もやい館会議室, 2022年3月29日
- (6) 「紛争解決の日常化と民主化：Conflict Resolution～あなたにもできる紛争解決～」, 非暴力平和隊・日本NPJカフェ, 於：オンライン, 2022年4月17日
- (7) 「シリーズ〈ウクライナ戦争への視座——平和学から考える〉：私たちが見えていないもの、そしてモヤモヤ感」, 日本平和学会関西地区研究会企画, 中国四国地区研究会協力, 於：オンライン, 2022年6月4日
- (8) 「平和を創り出す人に」, 大阪女学院大学オープンキャンパス体験授業, 於：大阪女学院大学308教室, 2022年7月10日
- (9) 「NARPI 2022: Special Online & Local Alternative to the 2022 Summer Peacebuilding Training」, Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute, 於：オンライン, 2022年8月7日+20日
- (10) 「みんながハッピーになる方法：コンフリクトとともに生きる紛争解決学」, 令和4年度宮崎県人権啓発推進協議会委託(宮崎県人権啓発活動協働推進事業)「Peacefulな関係を作るには？紛争解決学と修復的対話ワークショップ」, 於：宮崎国際大学国際交流センター, 2022年8月22日
- (11) 「“やりとりする力”を身に付けよう～コンフリクトワークから平和について考える～」, 大阪狭山市「令和4年度職員人権研修」, 於：オンライン, 2022年9月16日
- (12) 「平和を創る発想と方法：安全保障アプローチから平和アプローチへ」, 西本願寺僧侶養成部「布教使課程全寮制コース」講義, 於：京都市西本願寺伝道館, 2022年9月30日
- (13) 「平和を創る発想をクリエイトする」, 大阪アドバタイジングエージェンシーズ協会第12回OAAA人権セミナー, 於：オンライン, 2022年11月18日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国際トランセンド 認証トレーナー 2000年11月26日～現在に至る
- (2) 同上 東北アジア地域コンピーナー 2006年～現在に至る
- (3) トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 理事 2017年1月～現在に至る
- (4) 非暴力平和隊・日本 理事 2003年1月31日～現在に至る
- (5) 日本平和学会 平和と芸術分科会 副責任者 2012年2月～現在に至る
- (6) NARPI(Northeast Asia Peace Research Institute) 副委員長 2020年～現在に至る
- (7) ACTION Asia Leader 2010年11月～現在に至る

- (8) 神戸家庭裁判所(本庁) 家事調停委員 2014年10月1日～2022年9月30日
- (9) 大阪女学院大学国際共生研究所(RIICC) プロジェクト3「ファシリテーション・メディアエーション研究」設立者・代表 2014年10月8日～現在に至る
- (10) The Charhar Institute(察哈尔学会) 高級研究員 2015年12月～現在に至る
- (11) 南京大屠殺史と国際和平研究院(the Institute of Nanjing Massacre and International Peace Studies, INMIPS)Special Fellow 2017年10月～現在に至る
- (12) 一般社団法人「みんなのいえ」(英語名: OBI, Okinawa Bridge-builders Institute Association Inc.) 設立時専門委員
同上「へいわのがっこう(BBS, Bridge Builders' School)」スーパーバイザー 2020年3月～現在に至る
- (13) IMPCAT(米国 Brandeis University, International Center for Ethics, Justice and Public Life, Peacebuilding and the Arts, "IMPACT-Imagining Together: Platform for Arts, Culture and Conflict Transformation" プロジェクト) Transitional Board, board member 2021年9月～現在に至る
- (14) 日本平和学会第25期 理事, 会長 2022年1月～2023年12月
- (15) 英国College for Creative Change the College's Advisory Board 2022年5月～現在に至る
- (16) The China Journal of Peace Studies the editorial board member 2022年6月～現在に至る

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「分断された地域コミュニティの「対立・葛藤変容」に向けた分析とプログラムの提示」科学研究費助成事業基盤研究(B) 平成31～35年
- (2) 「Values, Ethics and Trust in Peacebuilding Network」AH/W009765/1, Arts and Humanities Research Council, UK Research and Innovation, 1 February 2022～31 January 2024

大塚 朝美(おおつか・ともみ) [英語音声教育, TESOL]

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「反転学習による「スモールトーク」を活用したスピーキング力向上を目指す指導法」, 『関西英語教育学会 英語教育研究』45号, 2022年3月, 共著

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「未来の学校のつくりかた」(税所篤快著), 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教員養成センター, 『書籍紹介』, 2021年12月～2022年1月, 単著
- (2) 「オンライン授業に求められること」, 『教員養成センター Newsletter』, 第32号, 2022年1月, 単著
- (3) 「将来になりたい職業とICT」, 『大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教職課程機関誌』, Vol.12, 2022年3月, 単著
- (4) 「教育現場のインターンシップ」, 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教員養成センター, 『英語教育リレー随想』第132号, 2022年4・5月, 単著
- (5) 「Appleのデジタル教育」(ジョン・カウチ, ジェイソン・タウン著), 大阪女学院大学・大阪女学院短期大学教員養成センター, 『書籍紹介』, 2022年10月・11月, 単著

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「『英語らしい発音』とは? 世界で通用する英語の発音を目指そう!」, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2022年8月21日

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「グローバルリンガフランクカとしての英語とオーラルコミュニケーション能力の伸張」日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究分担者 2019年4月～2022年3月

朴 賢淑 (パク・ヒヨンス) [キリスト教学, 宣教学 (東アジア, ラテンアメリカ), 実践神学, 公共の哲学]

II. 学術論文

- (1) 「咸錫憲のヨハネによる福音書解釈とシアル思想：1980年代を中心に」『紀要』第18号, 大阪女学院大学, 2022年3月, 単著。

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 閉会礼拝説教「平和へと招かれている」, 2022年11月5日, キリスト教学学校教育同盟学校代表者協議会, 開催：大阪女学院大学。

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本基督教学会 (近畿支部会) 幹事。

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) キリスト教学学校教育同盟学校代表者協議会閉会礼拝説教「平和へと招かれている」, 2022年11月5日, キリスト教学学校教育同盟学校代表者協議会, 開催：大阪女学院大学。
- (2) 大阪女学院創立礼拝説教「揺るぎない確信」, 2022年1月8日, 大阪女学院ホールチャペル。
- (3) ヘル先生墓前礼拝説教「イエス・キリストが示した模範」, 2022年10月22日, 大阪市立服部霊園。

関根 聰 (せきね・あきら) [社会学, 家族社会学, 福祉社会学, ジェンダー論]

II. 学術論文

- (1) 「ファシリテーション研究とは何か：6つの学問領域における先行文献レビューを比較して」, 『大阪女学院大学紀要第18号』, 2022年3月1日, 共著
- (2) 「女性大学生における性役割意識4」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢23号』, 2022年3月1日, 単著

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「高齢者介護をめぐる家族危機」, 姫路市人権啓発センター, 於：香寺公民館, 2022年8月16日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 阪南市男女共同参画推進審議会 副会長 2014年7月～2022年3月
- (2) 一般財団法人 大学・短期大学基準協会 認証評価に係る評価員 2020年4月～2022年3月
- (3) 大阪市「女性活躍推進情報発信事業業務委託事業者選定会議委員会」委員長 2022年3月

Sponseller, Aaron C. (スポンセラー・アーロン) [TESOL, Applied Linguistics, Early Childhood L2 Literacy, Study Abroad]

II. 学術論文

- (1) “Examining Motivation to Study Abroad Among Japanese Undergraduates.” *大阪女学院短期大学紀要* (第51巻), March 2022, individual.
- (2) “Modeling personality antecedents and second language self-efficacy constructs with emerging adults in Japan: Domain-specific matching for assessing global competence in applied contexts.” *Frontiers in Psychology*, 13, 1032573. December 2022, joint.

IV. 学会発表

- (1) “Structural Equation Modeling of Personality Antecedents and Self-Efficacy in Intercultural Communication with University Students in Japan.” *International Association of Psychology in Language Learning Conference*, online, June 2022, joint.
- (2) “Mixed Methods Study Abroad Research: Will Marrying Modern Statistics and Novel Qualitative Techniques Answer our Biggest Questions?” *JALT Study Abroad SIG Conference*, September 2022, individual, INVITED PLENARY.

- (3) "Advice on Writing your Dissertation." Temple University Japan Applied Linguistics PhD Program [invited lecture], November 2022, individual.

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) Investigating the intercultural development of Japanese undergraduates attributable to study tours abroad, JSPS Kakenhi Kiban B, Grant #21H00554, 2021-2026

Swenson, Tamara (スウェンソン・タマラ) [Communication, English education, Qualitative research]

Ⅱ. 学術論文

- (1) (2022). Providing feedback in Moodle question bank items. *Osaka Jogakuin University Research Journal*, 18, 203-224.

Ⅳ. 学会発表

- (1) Lessons from the pandemic for communication & media (& other content-based English classes). *CJCU Webinar: Changes and challenges of English education in the era of COVID-19 Pandemic*. Invited Speaker. Chang Jung Christian University (CJCU), Tainan, Taiwan, November 28, 2022.
- (2) Lessons from the pandemic for SA (study abroad) programs. JALT International Conference on Language Teaching & Learning, Fukuoka, Japan, November 12.
- (3) International programs: Consider post-pandemic tours + online options. *CJCU Webinar: Cultivation of International Talent in the Post-Pandemic Era*. Invited Speaker. Chang Jung Christian University (CJCU), Tainan, Taiwan, September 28, 2022. Available: <https://www.youtube.com/watch?v=t3v4UyXoUS8> & <https://www.cjcu.edu.tw/en/news-detail.php?id=news,5626>
- (4) Using spreadsheet formulas to generate items with feedback for question banks. Moodle Moot, Moodle Association of Japan, February 18 (online).

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) *JALT Journal*, Editorial Advisory Board member, Jan. through Dec. 2022 (full year)
- (2) *JALT 2020 Conference Proceedings*, Editorial Advisory Board member, Jan. through Dec. 2022 (full year)
- (3) JALT 2021 Conference Proposal Reading Committee member, Jan. to March. 2022
- (4) 玉造カトリック教会, 聖マリア大聖堂, 広報委員会メンバー, 2022年1月~12月 [Tamatsukuri Catholic Church, St. Mary's Cathedral, Publicity Committee member, Japanese to English and English to Japanese translation as needed, and English publicity, Jan. through Dec. 2021] (full year)

高橋 宗瑠 (たかはし・そうる) [国際人権法, 国際難民法, 国際人道法, イスラマフォビア]

Ⅰ. 著訳書

- (1) 「国際協力と人権：変容する社会と『これから』の国際協力をみすえて」, JANIC NGO研究会編集, 担当部分: 「信教の自由」。
- (2) 教養としてのジェンダーと平和Ⅱ, 法律文化社, 今野泰三編集, 担当部分: 「人権と国際法の基本」。

Ⅲ. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Ukraine: the Lesson Japanese Policy Makers Won't Learn, *Politics Today*, SETA. (Mar.)
- (2) Another Sakoku? Japan's Ongoing Stagnation Is Closing the Country, *Politics Today*, SETA. (Jul.)

IV. 学会発表

- (1) Palestine and Ukraine: the Strengths and Limitations of International Law, Keynote Speaker, Inaugural Conference, Hashim Sani Centre for Palestine Studies, University Malaya. (Nov.)
- (2) Discrimination against Muslims as the “New Normal”: Japan and Denmark, 2022 Global Meeting on Law and Society, panel sponsored by Asian Law and Society Association, Lisbon. (Jul.)
- (3) Emergency after Emergency: the State of Exception as the ‘New Normal’, Keynote Speaker, Peace as a Global Language 2022 Global Conference, Embracing Change in VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) World: Reflections, Narratives, and Research, Osaka. (Jul.)
- (4) Framed as a Threat to Security and Culture: Muslim Minorities, United Arab Emirates University Law Faculty, Law and a Better World: Strengthening the Values of Coexistence, Panel: “The Role of International Instruments”, Dubai. (Mar.)

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) Doing Business with Israel: Japan, Best Business Practice of Colonialism: Case Study Palestine, World Social Forum, Mexico City. (May)
- (2) パレスチナにおけるビジネスと人権：ボイコットと企業の役割，ヒューマンライツナウ ビジネスと人権アカデミー（Feb.）

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) International Islamophobia Studies Research Association, 初代財務担当理事。
- (2) 世界人権問題研究センター，ビジネスと人権プロジェクトチーム委員（京都）。
- (3) Member, Human Rights Advisory Board, Japan Tobacco International, Geneva.
- (4) Member, Advisory Board, Asia Centre, Bangkok.
- (5) Advisory Board, Hashim Sani Centre for Palestine Studies, University Malaya.

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) ポスト・オスロ合意期におけるパレスチナ人の新しいネットワークと解放構想の形成過程（研究分担者），日本学術振興会科学研究費助成事業，基盤研究B，2022－2024年度（3年間）。
- (2) パレスチナ/イスラエル紛争の変容：最終的地位と新たな課題，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「共同利用・共同研究課題」，2022－2024年度（3年間）。
- (3) 「ムスリム移住者との共生：国際人権法から見たデンマーク新政策の事例」（研究代表者），日本学術振興会科学研究費助成事業，研究活動スタート支援，2019－2022年度（4年間）。

Teaman, Brian（ティーマン・ブライアン）〔Phonetics, Prosody, English Speaking and Pronunciation, Computer Assisted Language Learning〕

II. 学術論文

- (1) Fluency of read speech in L2 English. *Ars Linguistica*, 28, August 2022, joint work.
- (2) Development of L2 prosody: The case of information focus. In *Tania, L., Shimanskaya, E. & Casilde A. Isabelli, C. A. (eds.) Generative SLA in the Age of Minimalism. Features, Interfaces, and Beyond*, 2022. Amsterdam: John Benjamins, joint work.

III. その他の著作（研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等）

- (1) Teaching Pronunciation: Biofeedback and Laboratory Work (ABS-0847) *Proceedings of the 24th International Congress on Acoustics [ICA]* (October 28, 2022) 59-62. [Extended abstract], joint work.

IV. 学会発表

- (1) Essentials of pronunciation teaching and learning, TESOL: Pre-conference institute with Donna Brinton, Colleen Meyers and Carolyn Quarterman. Pittsburgh Pennsylvania, March 2022, joint presentation.
- (2) Teaching Pronunciation: Biofeedback and Laboratory Work (ABS-0847) with Yamane, N., Fujimori, A., and Kaneko, I. Proceedings of the 24th International Congress on Acoustics [ICA], October 28, 2022, joint presentation.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Japan Association of Language Teachers, Computer Assisted Language Learning SIG, Program Chair 2021-2023

Wong, Aerick (ウォング・エリック) [English as a Second/Foreign Language, Vocabulary]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Changes in High-Frequency Vocabulary Use in Three Writing Tasks, *Bulletin of Osaka Jogakuin University*, Vol. 18, Mar, 2022, individual work

山本 淳子(やまもと・じゅんこ) [第二言語習得, 英語教育, 動機づけ, CALL]

II. 学術論文

- (1) A Case Study of EFL Students' Motivation toward Online Exchange Programs. *Journal of Osaka Jogakuin University*, vol.18, March 2022, individual work
- (2) A Comparison of Two Different Types of Motivational Strategies: A Case Study of Two EFL Instructors, *International Journal of Curriculum Development and Practice*, vol. 25, No. 1, September 2022, individual work

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 『CALL研究における動機づけ理論の援用に関する考察』大阪女学院大学・短期大学, 教員養成センター 教職課程機関誌(12), 2022年3月
- (2) 「パワポの功罪」大阪女学院大学・短期大学, 教員養成センターホームページ, 英語教育リレー随想(133), 2022年6-7月
- (3) 『学生とともにスピーキングチャレンジ』大阪女学院大学・短期大学, 教員養成センター Newsletter(32), 2022年1月

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 動機づけ向上と学習時間増加を目指した協同学習による英語学習コンテンツの開発. 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)(研究代表者). 2022年度-2026年度.

八杉 裕美子(やすぎ・ゆみこ) [持続可能な社会(SDGs), CSR, マーケティング(エンターテインメントビジネス)]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「書籍紹介 Prosperity: Better Business Makes the Greater Good」, 『大阪女学院大学国際共生研究所ニュースレター』vol.16, 2022年11月, 単著
- (2) 「杉野遥亮 映画『やがて海へと届く』」, 『SCREEN+プラス』vol.78, 2022年3月, 単著
- (3) 「杉野遥亮 映画『バイオレンスアクション』」, 『SCREEN+プラス』vol.80, 2022年8月, 単著
- (4) 「宮沢氷魚 映画『グッバイ・クルエル・ワールド』」, 『SCREEN+プラス』vol.80, 2022年8月, 単著
- (5) 「宮沢氷魚 映画『グッバイ・クルエル・ワールド』 インタビュー“残酷な世界がなくなっ

てくれればという希望に繋がる作品”], SCREENオンライン, https://screenonline.jp/SCREEN_Plus/17571675, 2022年9月, 単著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「口頭発表 Constructing the Raison d'etre through the Engagement with Community: A Case Study of Manchester United Foundation」, アジア市場経済学会, 於: 第26回アジア市場経済学会全国研究大会国際セッション, 2022年7月2日

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「大阪女学院中学校キャリアガイダンス 基調講演」, 大阪女学院中学校, 於: ハールチャペル, 2022年11月18日